



RE100とMaaSの推進による
便利で安心して暮らせる循環型社会を目指して

官民協働による

加賀市は、スマートSDGsへ。



石川県加賀市

スマートシティを標榜する加賀市は、先端技術を活用してMaaSやRE100に取り組み、持続可能な都市を目指します。

「スマートシティ加賀」の取り組み

人口減少や少子高齢化により、労働力の不足や地域コミュニティの低下といった新たな地域課題に対して、AI、ロボット、ビッグデータなどの先端技術を活用することで、日常における様々な課題を解決する「スマートシティ加賀」を市民共創で取り組んでいます。

加賀市スマートシティ宣言の要点

< 基本理念 >

人間中心の未来社会の実現

< 3つの戦略 >

- 1 デジタルファースト
～データ駆動型のまちづくり～
- 2 クリエイティブ
～創造的なまちづくり～
- 3 スマートシチズン
～市民との共創によるまちづくり～



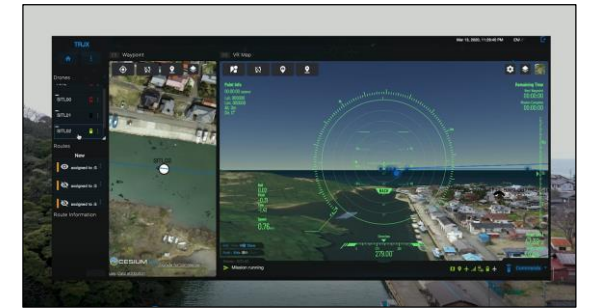
▶ 令和元年8月に、「加賀市スマートシティ推進官民連携協議会」を設立



▶ 令和2年3月に行った「加賀市スマートシティ宣言」



▶ 窓口サービスに導入したアバター



▶ ドローンの自動飛行を見据えた3D地図の作成

自治体SDGsモデル事業の概要

- ▶ 台風や豪雨による自然災害の頻発
- ▶ 世界首長誓約／日本やゼロカーボンシティへの取組
- ▶ 環境にやさしい再生可能エネルギー使用の促進
- ▶ 電気料金の市外流出（年間100億以上）

脱炭素社会と再生可能エネルギーの地消地産による地域内経済循環

- ▶ 多極分散型の都市構造とマイカー依存社会
- ▶ 高齢者ドライバー事故の増加
- ▶ ドライバー不足による路線バスの運行縮小
- ▶ 観光2次交通の充実による周遊性の向上と経済の活性化

市民や観光客に、移動の自由を保障した交通の最適化

加賀市版RE100

加賀市版MaaS

官民協働による自律的好循環

三側面の取組【経済】

(課題)

交通の最適化と観光2次交通への対策

(取組)

① MaaSプラットフォーム型ビジネスの推進

さまざまな移動サービスを最適化した「MaaSプラットフォーム」を構築することで、これまで、マイカー所有により必要となっていた多額の維持費を抑えるとともに、域内の移動サービスが充実されることで、マイカー依存型社会から脱却と域内の経済循環を図る。

② MaaSによる夜間の観光需要の獲得

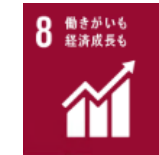
観光客の移動の利便性を高めることで、ナイトタイムエコノミー（日没から日の出までの経済活動）による需要の獲得や市民の夜の飲食についても行動が変容され、域内の経済活動を活性化させる。

③ 交通車両の電気自動車（EV）の導入促進

環境にやさしく、災害時における分散型電力として期待される電気自動車（EV）を、市内交通車両に導入することで、持続可能でレジリエント（強靱）な地域を創造する。

④ 電子決済・キャッシュレス化の推進

電車やバス・タクシーといった交通や旅館、飲食の会計など一連の支払いに対し、シームレスでキャッシュレスなサービスを構築することで、現金を持ち歩かないインバウンド観光客などの需要機会の損失を防ぐとともに、ストレスのない移動を市民、観光客に提供し域内経済の好循環を図る。



▶ 加賀市版MaaS推進のため立ち上げた「加賀MaaS コンソーシアム」



▶ MONE Technologies(株)と共に自動運転社会に向けた次世代モビリティサービスの取り組み。右の写真は路線バスに設置した乗客の属性データ収集の実証の様子。

三側面の取組【社会】

(課題)

人口減少社会における生活の質の維持・向上と人材育成

(取組)

① 女性も活躍するダイバーシティの推進

共働き世帯が全国4位であり、女性の社会進出が進んでいる石川県において、女性の活躍に力を入れている企業等の先進的な取り組みなどをSNS等で紹介し、更なる女性の社会参加を促す。また、2018年7月に行った「スマートインクルージョン推進宣言」では、AIやIoTなどの先端技術を活用し、障がいのある人もない人も、全ての人が住みやすいまちの実現を目指し、テレワークの推進による多様な働き方を支援する。

② 多様な発想ができるSTEAM教育の推進

自由で多様な発想ができるイノベーション人材の育成に向け、全国に先がけて取り組んでいるプログラミング教育や世界中の子どもたちがプログラミングによりロボットを動かす技術を競う「ロボレーブ国際大会」の開催、NPO法人みんなのコードと協働し、クラウドファンディング型ふるさと納税で資金を募っている「コンピュータクラブハウス加賀」の運営を行う。

③ 分散型電力を活用した防災エコタウンの推進

大規模災害時にも安定した電力供給に向け、災害時の拠点や避難所への太陽光発電の設置や民間宅における太陽光パネルの設置、電気自動車の普及を進め、電力の分散化を図り、災害にも強いレジリエントな防災エコタウンを目指す。



▶ スマートインクルージョン推進宣言の様子



左：コンピュータクラブハウス加賀の様子

右：ロボレーブ国際大会の様子

三側面の取組【環境】

(課題)

未来へ残す持続可能な環境の保全

(取組)

① 「RE100」賛同企業による自律的好循環の促進

2019年4月から「加賀市総合サービス株式会社」とともに、自治体新電力及び加賀市版RE100の取り組みを進めている。RE100の推進に向けては、市内企業への周知を進め、「加賀市SDGs推進パートナー制度」への登録を行うことで、新たなビジネス展開やESG投資を促進するなど、自律的好循環を目指す。

② 卒FIT取り込みによる再生可能エネルギーの推進

住宅用太陽光発電について10年間は買取価格の固定が保証されていた固定価格買取制度（F I T）が、2019年から順次満了を迎えることとなる。この電力（卒F I T）について、自治体新電力事業を進める「加賀市総合サービス株式会社」が移行買取を進めることで、再生可能エネルギーによる地消地産を推進する。

③ 持続可能な再生可能エネルギー発電の促進

地域資源を活用した再生可能エネルギー（地産）の供給に向け、市内の公共施設や遊休地等を対象とした太陽光発電設備等導入マスタープランを策定し、レジリエントで持続可能な地域を作るとともに「加賀市版RE100」の実現を目指す。



▶ 加賀市版RE100推進のため立ち上げた「加賀市RE100推進協議会」



▶ 加賀市総合サービス(株)と取り組むRE100を目指した自治体新電力の取り組み

三側面をつなぐ統合的取組

エネルギーチェンジと移動革命で、みんなの笑顔を、みんな未来へつなぐ
～官民協働による自律的で持続可能なまちを目指して～

(取組概要)

官と民が垣根を越えて、ともに取り組むことで、社会・経済・環境におけるそれぞれの課題を共有し、市と民間企業等のそれぞれが有するノウハウや技術力を活かすことで、3側面の課題解決に向けた相乗効果を起こすとともに自律的好循環を生み出し、便利で快適な市民生活の質を向上させる。

「官」が持つ強み

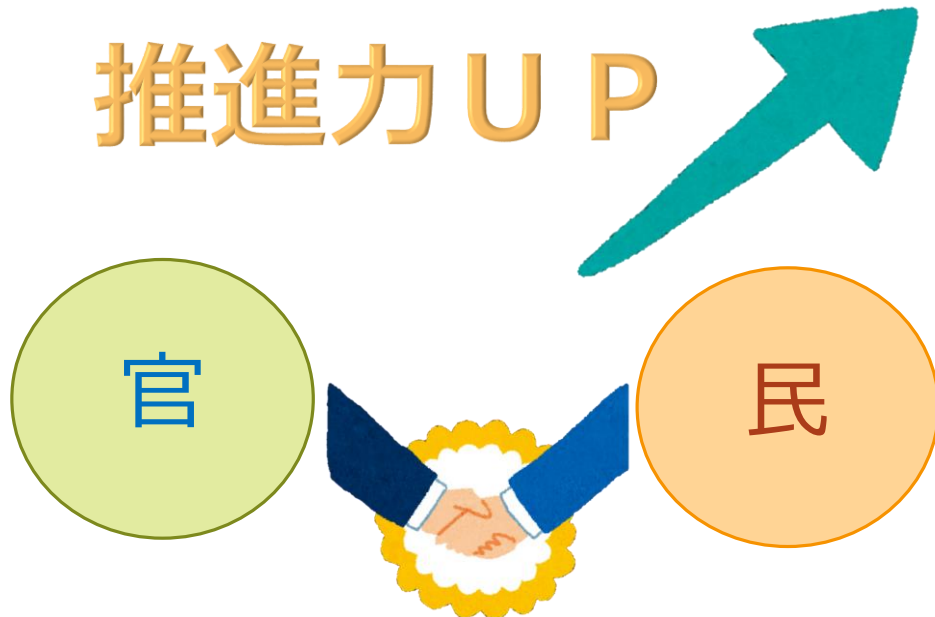
- ・ 住民の理解
- ・ 地域課題の把握
- ・ 市民との共創



「民」が持つ強み

- ・ 豊富なノウハウ
- ・ 高い技術力
- ・ 必要な資本
- ・ スピード感

推進力UP



【連携が期待できる組織・関係企業等】

1. 全体的な取組

- ・ 加賀市スマートシティ推進官民連携協議会
(まちづくり団体、商工団体、農協等)
- ・ 加賀市SDGs推進パートナー制度
- ・ 学官連携大学／市内金融機関 等

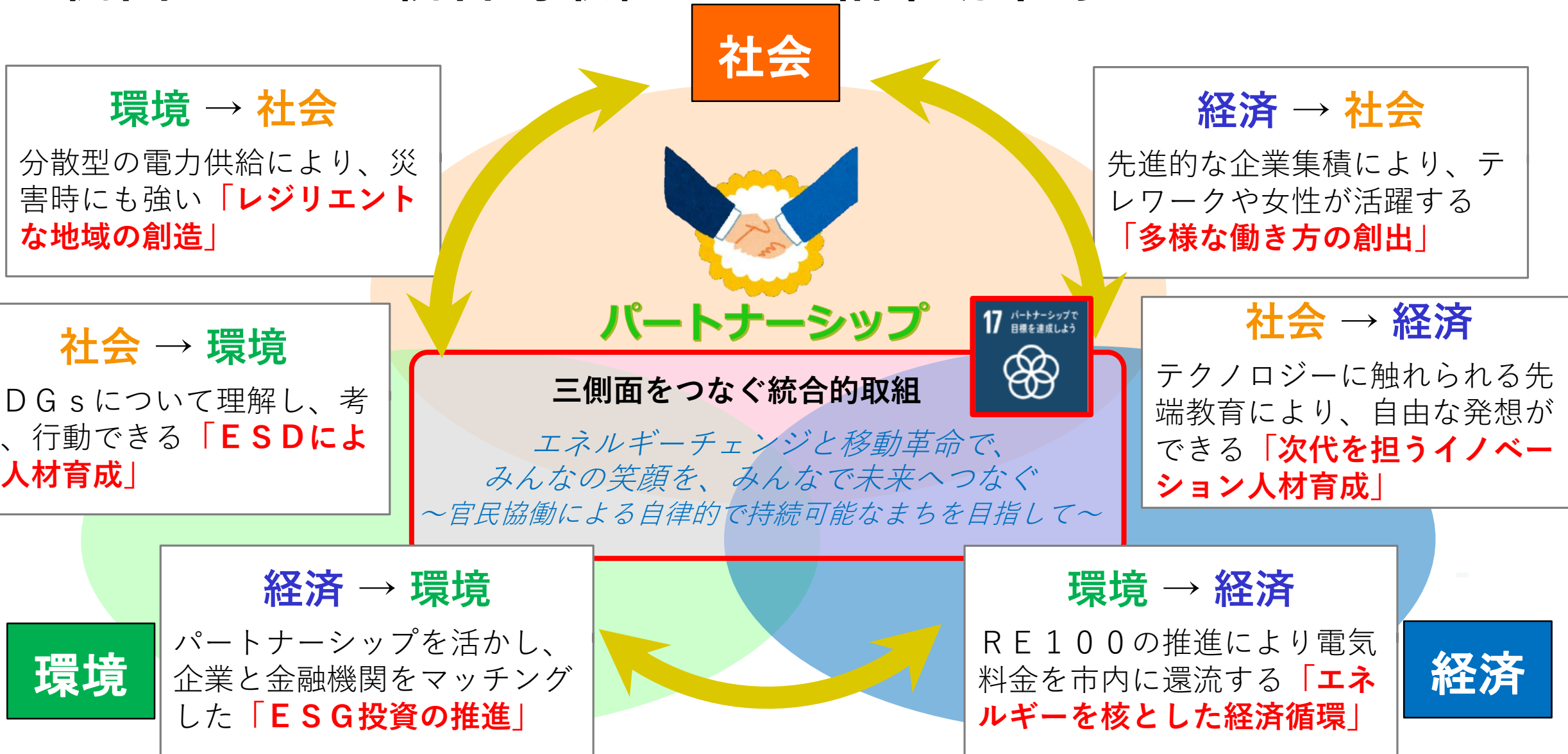
2. RE100の取組

- ・ 加賀市RE100推進協議会
- ・ 加賀市総合サービス(株)
- ・ まちみらい研究所 等

3. MaaSの取組

- ・ 加賀MaaSコンソーシアム
- ・ MaaS Tech Japan
- ・ MONE Technologies(株) 等

三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等

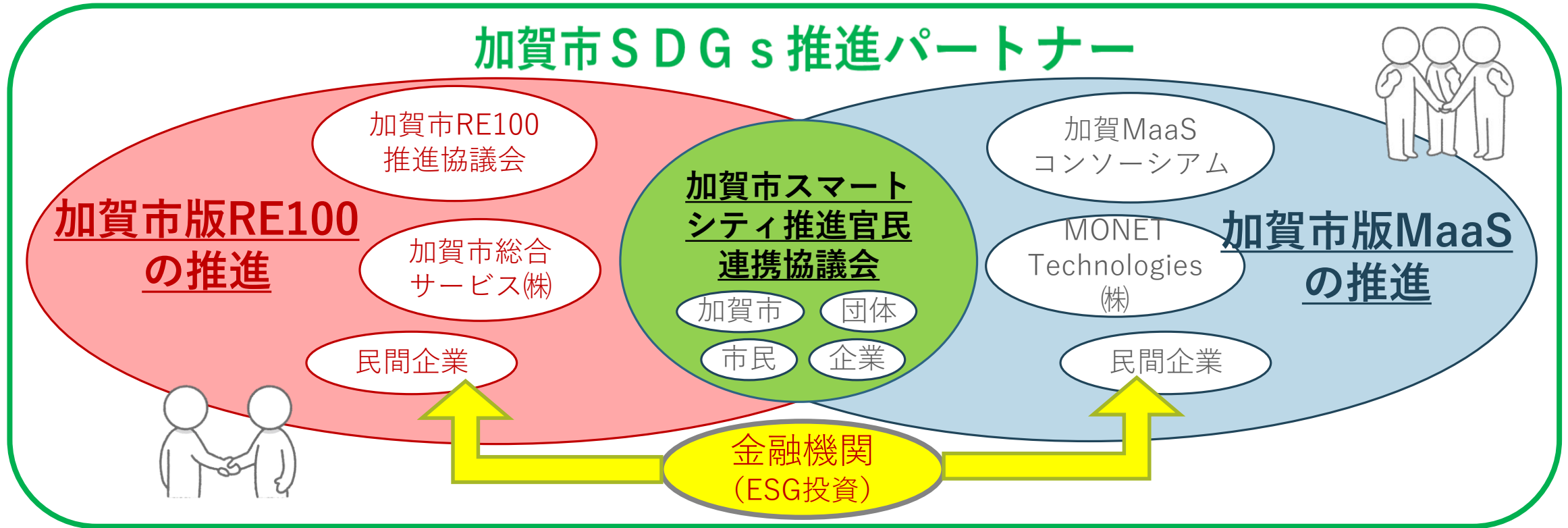


SDGsモデル事業による自律的好循環

「SDGsスタンダード」の地域を目指し、市と共にSDGsに取り組む「加賀市SDGs推進パートナー」を構築し、地域の課題を共有し、企業等が有するノウハウや技術力を活用することで、効果的に効率的に事業を推進する。さらに、金融機関も加わることで、民間企業の取り組みを支援する「ESG投資」を促進させるなど、人が人をつなげる自律的で持続可能なまちを目指す。

官民協働による自律的で持続可能なまちを目指して

加賀市SDGs推進パートナー



官民協働による

加賀市は、スマートSDGsへ。



石川県加賀市